

## 中国大連報告

国立大学法人電気通信大学  
産学官等連携推進本部  
特任教授 竹内利明

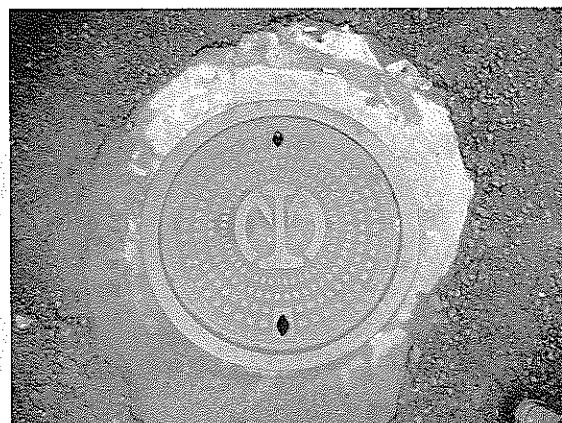
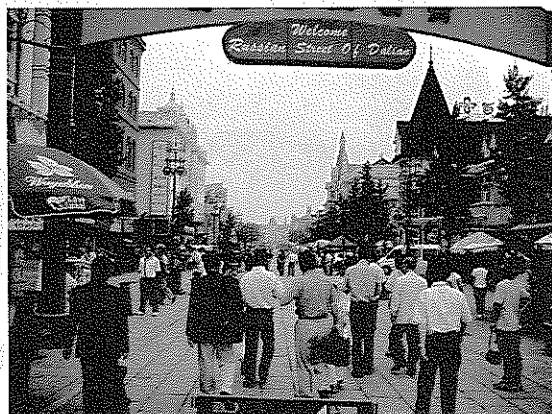
8月下旬から9月にかけて中国の大連を訪問して、合計11社を見学してきましたので、報告させていただきます。

今回は、電気通信大学技術経営実践スクール<sup>①</sup>（以下、MMP S）講師の角先生<sup>②</sup>と島田先生<sup>③</sup>に東芝大連工場を紹介していただき、見学することが出来ました。誌面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。来年は、MMP Sの受講生、卒業生と海外の工場見学を計画したいと相談しています。その際には、より多くの皆様に参加を検討していただければ幸いです。

地域と違い、社員の定着率が比較的良好なので、技能習得が必要な企業の進出も可能だと思います。

大連は、1899年にロシアが中国政府から租借、近くにある旅順港が軍港で貿易港としては使えないため、1年中凍らない不凍港の貿易港として開発に取り組みましたが、日露戦争が勃発、その後、日本が引き継いで開発を継続しました。

大連市の人口は、市街250万人、周辺を含めると590万人で、現在、出張者を含め約2万人の日本人が在住しているそうです。



### 中国大連報告

日程：2006年8月29日（火）

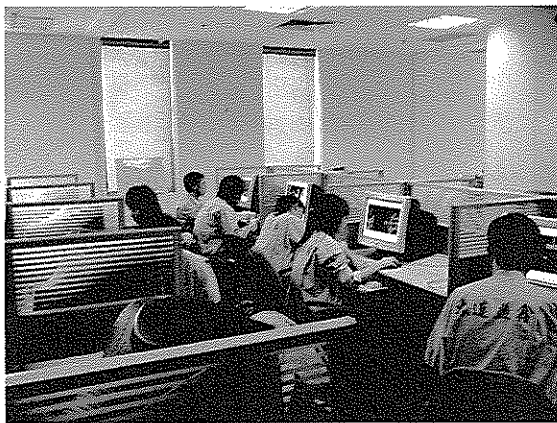
～9月2日（土）

今回初めて大連を訪問しましたが、もっと早く行くべきであったというのが一番の印象です。これまで行った中国、特に華南

今回情報系の企業を6社訪問しました。日本に留学経験のある中国人が社長の企業が4社、日本人が社長か副社長の企業が2社でした。電通大卒業生の企業も2社あり、全ての企業において日本語でのコミュニケーションが可能でした。

大連には、日本向けのオフショア開発に取り組む企業が200社以上あるそうです。昨年日本の大手電機メーカーが大連に進出して、今年中に2,000人雇用したいと言っているそうです。このように1,000~2,000人規模で日本向けのオフショア開発に取り組む企業が数社ありますが、その他の企業の社員数の平均を数十名とするなら、現在15,000~20,000人が、日本向けのソフト開発の仕事をしていることになります。

大連で給料が一番良いのがソフトウェア産業ということで、よい人材が流れています。大連理工大学を卒業した情報系の新卒の初任給は、約2,000円で、実力次第ですが、1、2年すると3,000円程度になります。大連市では6,000円を超える給料で雇用すると市政府が会社負担の所得税を還元する制度があります。(1元は15~16円)

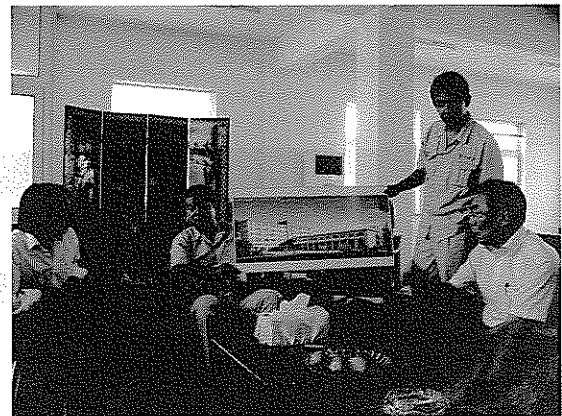


日本向けのソフト開発の受託料は、一人1ヶ月あたり20万円~25万円で、この金額は、ここ数年変わっていません。人件費は上がっていますが、企業努力で吸収しています。

情報系の企業は、単純なデータ入力やプログラムの仕事では差別化できなくなり、

日本に支社を開設して、日本で仕様打ち合わせを行い、大連で開発するというオフショア開発が主体になっています。また、組み込みソフトに取り組む企業が増えていることも印象的でした。

今回訪問した1社は、名古屋の印刷会社に勤務した経験のある中国人が社長を務めていて、日本から印刷の前工程であるプリプレス(組版)の仕事を受託していました。また、ここでは、アナログデータをデジタル化してインプットする作業やCADデータのトレースもしていましたが、単純な仕事は、人件費の安い黒龍江省のソフトウェアパークから人材を受け入れて、教育して発注することで、低コストを維持しようとしていました。



大連のものづくり系の日系企業は、主に経済開発区にあり、大連の中心部から30Km離れていて、車で40分程かかります。経済開発区は、1985年頃から誘致が始まり、現在、合弁企業が2,000社以上あり、日系企業が一番多く、続いて台湾系と韓国系企業です。

ワーカーは主に大連周辺の農村部出身で、多くは会社の寮で生活しています。給料は

月額 800 元～3,000 元です。

今回ものづくり系の企業を 5 社見学しました。日系企業は、東芝、山武、根本特殊化学の 3 社、ローカル企業は 2 社で、最近鳥取に支社を開設した金型メーカー（鳥取三洋やリョービ向けの樹脂成型品の金型）と 2005 年に中国の輸出に貢献した若手経営者トップ 10 に選ばれた木材加工（集積材やプレカット材）の企業です。

東芝大連工場は、大連の地域経済発展に大きく貢献していました。原則として新卒を採用していて、社員の定着率は非常に高いようです。香椎総経理に工場を案内していただきました。生産性や品質の向上に取り組むと共に、高度な医療機器の製造や設

計チームの充実など、中国が製造主体の工場から高度な知的業務の割合を増やしていることを実感することが出来ました。

今後も、大連には注目していきたいと思っています。



#### 編集企画脚注

##### ① 電気通信大学技術経営実践スクール(MMPS)

<http://www.kikou.uec.ac.jp/career/mmmps2006-panf.pdf>

21 世紀の「ものづくり」企業が、技術を活かし、開発力を高めて、オンリーワン経営を実現するための「ものづくり」経営実践能力を高める教育を目指して 2005 年 5 月に開講。電気通信大学の産学官等連携推進本部が主催、中小企業経営者や大企業の実務リーダーの教育経験を有する「むさし野経営塾」(塾長：角忠夫)が共催して、ものづくり企業の経営管理経験者、金融機関のトップ、大学教員などの多彩な講師に特徴がある。

(SPEC からは、2005 年度に村井取締役、2006 年度に鶴飼と松井が受講生となっている。)

##### ② 角忠夫

むさし野経営塾塾長

松蔭大学大学院教授

北陸先端科学技術大学院大学客員教授

芝浦工業大学大学院客員教授

芝浦メカトロニクス(株)(旧社名は芝浦製作所)の前代表取締役社長で、もともと電動機を主力製品としていた芝浦製作所を、エレクトロニクス製造装置メーカーへと変身させた立役者。驚異的なスピード(社長在任時の 5 年間で主力事業を一変させるという偉業を成し遂げた。

##### ③ 島田武樹

(財)社会経済生産本部 経営コンサルタント

元東芝大連有限公司総経理